

あまでうす

朝はレギュラー・コーヒー（UCCゴールドブレンド）、昼はインスタント・コーヒー（UCC170。ネスカフェ・エクセラ）と、日に四〜五杯は欠かさず飲んで

年に期待する運びと。なつた。それに代わらないのかと尋ねてみたが、その予定もな

毎月風地蔵新聞に書いてきた。が今年はその出来なくなつたのだ。そこで、今

ストウエーブ」とはどんな時代の波であったのか。第二次世界

リカのブルマス農園やグアテマラのラ・ベイヤ農園と云った

風地蔵新聞

温泉めぐり第三弾

鎌澤 宣子

九月一日、久々に息子と休みが合い、

然溶岩（サウナ）岩盤浴などがあり、一日遊べる位です。健美

す。水の力で体をもみほぐして、腰が楽

出た。下の健康な入るよ。母さ

かきました。汗はサラサラして、汗は

きまじい。私の若い頃は、息子の頃、

効率的な横断歩道。健美

ごろ息子が、お母さん、汗が大量に

ういて汗をいっぱい

と喜んできました。おわり

第144号 発行 編集 風地蔵 白石 美帆 〒503-0922 岐阜県大垣市馬場町85

# 川風

しらいしみほ

原先生に習い、JAFの冊子でみつけた事故防止講習会に行ってきた。まずは、運転席への座り方。講習所で、習ったはずだがまったく初めて聞いた感じ。す。

正しい座り方でも大きな事故になるか未然に防げるかの違いがある。そのあとは、車が停止している状態での死角！動いている時の死角！内輪と後輪の、前進とバックの時の幅！それらを、実体験することで運転席に座った時に、どれだけ見えないところが出てくるかが日ごろの想像とは違っていた。

バックモニターやフロントセンサーはあてにならない。最終的には、自分の目でしっかり確認しないといけない。事故につながる。そして、いよいよ自分の車を使っている。危険予知トレーニング。

「反応ブレーキングと停止距離」3回測る。速度は「40km」高速道路になれたわたしたちが遅く感じる。スピードだ。決められたポイントまで40kmで走りブレーキを強く踏む！あたしの車はトヨタのウィッシュにさらに、ツントルテンだったからブリヂストンの新しいタイヤに変えたばかりだから、メツチャ自信がある。

1回目。40kmがめっちゃ早く感じる。目標ポイントで赤いフラッグがふられた。「ブレーキ！」思いっきり踏む。あれれ。「13・00m！」「もっと強く踏み込んでください。この車の性能だと10m以内で停まり

ますから。」ブレーキ踏むのが怖い。「あの風船みたいなのは出ないんですか？」「エアバッグはぶつかると出ないので大丈夫ですよ。」「そういわれても、怖い。ギョッと踏んだら、クル〜ンってスピンするかも〜。」いままで、急ブレーキを故意に踏んだことなんてない。

ますよ♪」初めてうまくいった！やった。30kmでもパニックにはなつたけどできた〜！！人だったら、人を初めて、ひかずにすんだ！「ラストドライブ！また、40kmだ！ブレーキは、踏み込めてきたが、障害物を、一つ踏んだ。30kmなんて、我が家の裏道一本道で出す速度だつ、というのに！普通の道で、とっさに何か飛び出して来た。たちまち殺人だ！怖い〜。へとへとになった。最後はトヨタの、ハンドルから、エアバッグが飛び出す瞬間を少し離れた所で遠目に、実験をみせてくれた。そのあと、4人モデルさんがイヤホンで音楽を聴き、目隠しをして車が近づいたのがわかった時に、手を上げる実験だ。「はい！やります！」手を挙げた。風地蔵でもスタッフには講習会の時、必ず参加できるときは、一番に、挙手すること！と言っている。見るだけより体験した方がどれだけでもわかるのだ。イヤホンと目隠しを貸してもらい、4人列に並んだ。「気づかなかつたらひかれますか？」とジョーダンを言う。場がどつと沸いた。「だいじょうぶですよ。ひきません。」

えらばれた。4人は誰一人手を上げなかった。2度目、大きなドッドと音がする。トラックが、近づくどころかあたしたちの横に来た時点で気が付いた。しかも、ゆっくり近づいてきたわけだから、いつものスピードを出してたら、一巻の終わりだ。最近、自転車やバイクでイヤホンしてる人見かけます。多いですよ。まったく車の音、気配、聞こえてませんから。これを試した実験だった。あ〜、これは家族にもぜひやってもらいたい。「ねえねえ、ダンナちゃんなら何メートルで停まりきる？」と聞いてみた。もちろんこのこと全部話して、動画も見せてからきいた。「オレ、2m！」はあ〜、やつてみやがれ〜！！停まれる自信がある人も、絶対停まれん。やってみやがれ〜、である。こうして、命の授業の、半日が終わった。参加者のほとんどが、運転に関係ある会社から行けと指示されてきた人が多かったようだった。会社からも大事だろうけど、全員受けてほしいな〜と思った。毎月あつてるそう。JAFの会員なら1000円。その他の方でも2000円だ。ぜひ、体験してみてください。どうでしょうか。

はい、2回目。深呼吸！決めて、深呼吸！白いフラッグが降りて、GO！！ありやりのさつきよりも、停まらんかった。14、30m！3回目は、信号が赤になつたらブレーキ！これまでの目標制動とちがう。空走距離を試す。ぎやあ〜、19・90m。赤を認知して判断して、ブレーキを踏む操作まで、こんなに、時間がかかったのだ！ここで休憩。どどつと疲れる。帰りたい。ひ弱なあたしはいいえ、なんでもチャレンジ精神旺盛なのあたしがズタズタぼろぼろなのだ。ブレーキ一つもろくに踏めん。。。「さあ、次は。」はあ〜、まだあるんですかあ〜。くたくただ。あたし。「危険回避」難しいうえに、混乱する内容。また信号だ！その

うえ、青信号だった。赤のレーンに青のレーンに進む。その前にまずブレーキ！ブレーキだけでも踏めんの、混乱するわ〜。あ〜、前の障害物を、ドミノ倒し〜。よお〜、もういちかばちかたいつ！そんな問題じゃないと思うが前に、レーンの障害物があるからブレーキはさつきより踏み込めた感がある。障害物は踏んでない。がっ！左に行かなければならない。右へ行った！2度目は、これまでの40kmを「30km」にするっていう！！10km、違ってどんだけできるんやろ。まだつかん！信号にまだ色がつかん！もう障害物目の前やん！！あつついた！赤や！ブレーキ！そして、右へ！「停まりましたね。レーンもあつてい

ますよ♪」初めてうまくいった！やった。30kmでもパニックにはなつたけどできた〜！！人だったら、人を初めて、ひかずにすんだ！「ラストドライブ！また、40kmだ！ブレーキは、踏み込めてきたが、障害物を、一つ踏んだ。30kmなんて、我が家の裏道一本道で出す速度だつ、というのに！普通の道で、とっさに何か飛び出して来た。たちまち殺人だ！怖い〜。へとへとになった。最後はトヨタの、ハンドルから、エアバッグが飛び出す瞬間を少し離れた所で遠目に、実験をみせてくれた。そのあと、4人モデルさんがイヤホンで音楽を聴き、目隠しをして車が近づいたのがわかった時に、手を上げる実験だ。「はい！やります！」手を挙げた。風地蔵でもスタッフには講習会の時、必ず参加できるときは、一番に、挙手すること！と言っている。見るだけより体験した方がどれだけでもわかるのだ。イヤホンと目隠しを貸してもらい、4人列に並んだ。「気づかなかつたらひかれますか？」とジョーダンを言う。場がどつと沸いた。「だいじょうぶですよ。ひきません。」

えらばれた。4人は誰一人手を上げなかった。2度目、大きなドッドと音がする。トラックが、近づくどころかあたしたちの横に来た時点で気が付いた。しかも、ゆっくり近づいてきたわけだから、いつものスピードを出してたら、一巻の終わりだ。最近、自転車やバイクでイヤホンしてる人見かけます。多いですよ。まったく車の音、気配、聞こえてませんから。これを試した実験だった。あ〜、これは家族にもぜひやってもらいたい。「ねえねえ、ダンナちゃんなら何メートルで停まりきる？」と聞いてみた。もちろんこのこと全部話して、動画も見せてからきいた。「オレ、2m！」はあ〜、やつてみやがれ〜！！停まれる自信がある人も、絶対停まれん。やってみやがれ〜、である。こうして、命の授業の、半日が終わった。参加者のほとんどが、運転に関係ある会社から行けと指示されてきた人が多かったようだった。会社からも大事だろうけど、全員受けてほしいな〜と思った。毎月あつてるそう。JAFの会員なら1000円。その他の方でも2000円だ。ぜひ、体験してみてください。どうでしょうか。

ちよつと立ち話

今回はハイウェイオアシスかりやにいつてきます。水晶の湯は今度行きますね。(エステのKさん)

あなたが配っているのね。楽しみに読んでますよ。おもしろいですよね。(北切石の奥さま)

りーちゃん がんばってるね！新聞見てうれしかった！(小さい時から可愛がってくれている大垣のおばあちゃん)

大垣市民である原先生は自分の休みが合えば大垣イベントに参加されます。なかなか出来る事ではな

いですね。店長の家族は本当に仲がいいですよ。我が家は家族で遊びに行つたのは下の子が2歳の時が最後だったと思います。毎年恒例となりまして久留米絃展。今年から社長も審査員に加わり、コンテストが福岡で行われました。今年もかなりの大作だそうです。10月3日より風地蔵にて作品を展示します。年に一度の大イベントですよ。(大橋)

教室。いつも行かれた後いろいろ教えてもらっています。その時はやるぞと思えますがついサボってしまいますね。楽しんだりーちゃん。楽しんで仕事できるって幸せですね。本当に好きっていうのが伝わります。あまですさん取材お疲れ様でした。ここに書かれてない事もたくさんあったと思います。今度話を聞かせてくださいね。奥田さん奥が深い言葉です。(鎌澤)

おるの！と聞いたら「道！」という答えが返ってきた話を聞いて思いつきり笑いしました。前に名古屋港水族館に行つたとき、一緒に行つた人がイルカが大好きでほかつておいたら、1日でも見てそうな感じでした。介護職は大変だし、大変なのに給料が安い。それを楽しいと思つてできる仕事は天職だと思いますよ。9円切手がないという事を改めて調りしました。

法事の法話でききました。思い出すことと喜んでもらうと思ふと嬉しいです。西濃美術展には、花の絵と書道に風地蔵のご近所の奥さまの絵と、カフェの「行く川の流れ」を書かれた岩瀬先生と、りおんの入賞した絵が飾られていたのを見に行つたなあとおもいなながら。先生の芸術に触れたり、体験したりしていることは後々必ず自分の中身となつて開花していきます。楽しみです！息子と店長のおんなじ顔が仲のいい秘訣なんだなと思いがら、いや、我が家もそつくりだけどしよつちゅうケンカばかりしています。(みほ)

中野さんコンサートよろしくお願ひします。そういえば前に大橋さんのお母さんが道に迷つたことがあり、電話で「今、どこに

故人をしのぶことこそが供養だと9月の

息子と店長のおんなじ顔が仲のいい秘訣なんだなと思いがら、いや、我が家もそつくりだけどしよつちゅうケンカばかりしています。(みほ)

思い出す

大橋 美紀

8月14日で義母が亡くなり1年が経ちました。一周忌の法要も終わり、義母のことを改めて思い返しました。私が主人と結婚した時、義母は今の私と同じ40代後半。一番頭に浮かぶと言えはその頃17年前亡くなつた義父も元気でしたの

だけと思うほどでした。しかし義父に肺ガンがみつかり、入院すると義母は仕事も辞め、病院に泊まり込み、自分の事は何もかまわず、父の看病に1年間本当に尽くしきりました。人一倍 不安症で心配性だった母なので、もしも私がいけない時に父の病状が変わつたらという思いから家に帰ることも、本当にお風呂に2、3日に1回入りに帰るぐらいで亡くなる前10日間はお風呂に入りに帰ることもしない母でした。あれだけケンカばかりしてはいたのに、やっぱり、夫婦なんだなとその時私は感じて

いきました。その後父が亡くなつてから母は弱くなり、2つの病院の薬を飲んでい

ちと一緒に暮らしていたのですが、そのうちごはんの時しか部屋から出ることもしなく、1日中、部屋の隅で体操座りをし、ラジオを聴いていました。ある日の夜中、義姉からの電話「お母さんが変なの。ちよつと来て」。あわてて行くと洗面台にしがみつき子供のように「嫌、嫌」の連言。その後も布団にしがみつき病院に「行かない 行かない」とそんなことが何度も。そのうち、私たちの事もわからなくなつたり、「帰れ」と言つたり、痴呆も進んでいったのです。福祉の方に相談をし、病院に入院となり、

数週間後、入院先で肺炎になり、亡くなつてしまつたのです。母は、オシャレもしない、贅沢もしない、本当に父の事や子供の事を心配ばかりしながら生きてきました。楽しい事をしたのだからか？自分のために何かをしたのだからか？母は人のためばかりの人でした。私も親孝行も何もできなかつた。何もしてあげることができません。一番の後悔となつています。今、こうやって母の事を思い出すことが小さな孝行だと思つています。

# 芸術の秋

原 由里子

家では新聞をとつています。毎日、私が新聞を見るとところは天気予報と占いです。

あとは畳の上に鞆を直接置くのが嫌なので、新聞を広げてその上に置くんですが、西濃版の所や、スポーツ欄が拡げられるときはチェックします。ある日、いつものように新聞を広げて敷いてあったので見ると、「心支えた花の切り絵」という大きい見出しが書いてありました。

読んでいくと大垣在住の方で、息子さんが交通事故に遭い、介護が必要になったそうです。

介護の傍ら、最初は事故前から続けていた塗り絵をしていたそうです。でも塗り絵だとすぐに完成してしまうからと、塗り絵を切り抜いて「切り絵」を始めたそうです。写真が載っていて、素敵な作品です。

展示している場所は、大垣市歴史民俗資料館。入場料は百円。9月20日まで展示を行っている。と書いてありました。もう一つ、大垣の広報を見てチェックしていた「第28回 西濃美術展」。期間が3日間と短く、ちょうど休みの10日、同じ日に見に行くと決めました。

休み当日、姉からメールが来ました。姉も休みだけど夕方から用事があるとか。それまで暇らしく「どこかに行かないかな」というお誘いでした。姉に電話すると、一緒に歩いていくと言ったので、2人で見に行くことになりました。

この日は結構、風が強く向い風。自転車を走らせているので、なかなか前に進みません。国分寺の近くなんですけど、ほぼ風を遮る建物がないので足腰が鍛えられます。

風と戦いながら、やっと到着です。歴史民俗資料館とはどんなところなのか、少しだけお話しさせて頂きます。大垣市青野町にあり、美濃国分寺跡の北側にあ

ります。ちなみに美濃国分寺は全国にある国分寺の中でも3つの指に入るくらいに大きいです。

資料館の中は、国分寺の復元模型・出土品・発掘写真パネルなどが展示してあります。あと、西濃地方の農耕文化を中心とした生産用具や日常生活に関係が深い資料を展示しています。

花の切り絵の作品は、資料館の2階に展示してあります。机の上には 切り絵展のカラーのチラシと黄色とオレンジ色の2色の紙に作品一覧と「私と切り絵」と題して、切り絵を始めたいきさつが書いてあります。

展示の仕方は衝立を壁にして作品が飾られています。ほぼ花の切り絵ですが中には「牡丹と蝶」「花鳥」と鳥も一緒に切り絵になっていて作品もありました。

よく見ると黒い紙に切り絵が貼ってあり、あとから色紙を貼って花や葉や枝の色も再現してあります。

姉も私もそれぞれ好きな切り絵があり、話をしながら一点一点の作品を見て行きました。ちなみに姉は椿の切り絵が、私はバラと木蓮の切り絵がお気に入りです。次は西濃美術展です。場所はスイトピアセンター文化会館の3階と4階に展示してあります。

文化会館に向かっている途中、気づいたことがあります。追い風で、風と同じスピードで自転車を走らせるとまったく風を感じない無風状態になるんです。まだ気温も高いのか無風状態は微妙に暑かったです。

不思議な感覚を味わいながら、会場に到着しました。

受付では署名をお願いされました。なんでも宣伝になるのかなと、風地蔵の店名を書きました。3階は2つの部屋です。ちらも写真が展示してあります。写真の中に舟下りの写真があり、花嫁さんと花婿さんを乗せた写真があり

ました。舟下りの船頭さんをよく見ると、たらい舟をトラックで運んでいる方の息子さんが映っていました。

4階は、3つの部屋で、展示室Aは洋画と書、Bは彫工デザイン画、Cは日本画が展示してあります。

まず、日本画を見て行きました。風地蔵のお店の近所の方は日本画を描かれています。必ず出展されています。どこにあるのかなと探しながら見て行きました。

入口から左回りで見て行き、作品が残り少なくなってきたところで、やっとなつてきました。入口から真正面の場所に展示してあります。白い沙羅双樹が描かれていて、近所の方は花の絵を中心に絵を描かれます。

日本画を見たあと、彫塑工芸（能面・銅像・彫刻・粘土作品など）とデザイン画を見ていきました。その部屋の中に 槌屋の2代目社長の大きな銅像

があり、その存在感がすごかったです。グラフィックアートや日本昔話に出てきそうな漫画絵やかなり本格的な能面が壁に展示してあり

どこから見ようかなという感じで見て行きました。そして最後の部屋、洋画と書道の作品です。

そういえば昨年、西濃美術展の最終日にぎりぎり見に来たので、洋画と書道が見れず、早々に片付けられたことを思い出しました。

今回は見ることができて嬉しかったです。この部屋にはいくつかの衝立が空間を開けて置いてあり、たくさんの洋画と書道が飾ってあります。

最初に洋画を見て行きました。日本画と洋画を何度か見比べてきて、なんとなくですが違いが分かってくる気がします。言葉では表現しにくいんですが。洋画の中ですごいなーと思った作品がありました。大きなキャンパスに頭にボコボコとイボが付いた

ような金魚が描かれていました。その頭のイボイボの一つ一つが人の顔になっていきます。不気味なんですけど独創的でかなり絵が上手かったです。次に書道を見ていきました。

私は字が下手なので、すごいなー、こんな風に書けたらなーと、憧れの目で見ていました。

書道の中で一際目立っていたのが「尊」という感じが一文字、すごい大きく書かれた作品がありました。カッコイイ作品です。

西濃美術展が17時までで、時計を見るとあと少して17時になるところで全部見て終われたので、素直に帰ることが出来ました。

姉も夕方から用事があるので、その場で別れました。休みの日に芸術に触れ、自転車で移動するので体力も使い、充実した1日になりました。おわり

## 古民家再生プロジェクト

徳島県神山町へ視察研修に参加した。何もない田舎の町に大手IT企業がどんどん進出したり、若い家族が移住したり、今注目の町。現地の中心人物の方に案内していただき、生の声を聞いた。建築家、NPO、市の街づくり担当者、市議員などメンバーは多彩。自分自身空き家、古民家の仕事が多くなっている。

パソコン一つで仕事ができる時代。古民家を改装したオフィスで都会と同じ仕事ができる。田舎には「働き口」がない。ならば手に職がある人を呼ぼうという試み。「この古民家が空いています、パン屋さんやりませんか？」

風地蔵さんのようなカフェやフレンチなど、お洒落なお店がいっぱいあった。みなさん東京や大阪の出身者。

田舎では異例の出て行く人より、入って来る人のほうが多くなったそうだ。

もう新築の時代ではない。古くていい家を上手に改装し豊かに暮らす。古民家には「庭」もついている。新しい庭の形を提案し、暮らしに貢献したい。

庭師 奥田良樹